

会報 第152号
発行日 平成29年6月1日
発行・編集 V・G 機輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin

V.G 機輪だより

わがまち紹介

平安京の中心で あつたまち：上京区

5月18日五月晴れの日、京都市営地下鉄丸太町駅北改札出口に集合し、京都府庁旧本館、京都御苑旧閑院宮邸跡、拾翠亭を訪問した。

京都府庁旧本館では、京都観光文化を考える会・都草の方の説明をして頂きました。

現在のの上京区は、東は鴨川、西は紙屋川、北は鞍馬口通、南は丸太町によって区切られた長方形の地域です。交差する一条通と堀川によって、大きく四つの地域に分割されているが、中世、近世の上京もこうした地域区分の上に歴史的な展開をしてきました。

京都府庁旧本館

議会で承認されたのは明治33年のことで、翌34年11月に起工した。当時は、地方行政の骨格も定まり、行政事務の拡大と細分化、官吏数の増大があり、そのため庁舎機能の拡大と多様化に対応できる建物を計

画することと、それまで庁舎と一体ではなかった府議事堂を庁舎内に設けることが求められた。また、外観はこれまでの和風建築とは異なる正統的な西洋建築の意匠が要求されたため、先に完成していた東京府庁舎（明治27年）や兵庫県庁舎（明治35年）を参考に、よりよいものを目指して設計されたようです。

旧本館の文化財としての価値



京都府庁旧本館の旧知事室

(1) 西洋建築の様式的習熟の高さを示すもの

建築の基本モチーフはルネサンス様式に属し、建物の外観は、正面の一段高くなった屋根を中心として左右両翼に対称に張り出した形となっており、西洋近世の大邸館をほうふつさせるものが

ある。明治30年代は、日本人がこうした西洋建築における様式操作を適切に行えるようになり始める時期であり、本建築はその代表と位置づけられる。建物内部においては、随所に和風の優れた技術が巧みに取り入れられており、内部意匠は建築よりもむしろ工芸品といった趣きを感じさせる。

(2) 近代行政庁舎建築の歩みをよく物語るものであること

明治維新以来続けられてきた近代的行政庁舎の模索の総決算的建築であり、以後、大正期後半までは、府県庁舎の典型として模範にされた。

近代日本が生み出した府県庁舎のうち、東京府庁舎はすでになく、兵庫県庁舎は、昭和20年の戦災で壁体だけを残して焼失した。それらの中、京都府庁旧本館は本格的に改修するようにならざる、明治期の形態を損なうことなく、府県庁舎の全容をとどめていま

拾翠亭



九条家遺構 拾翠亭

拾翠亭は五摂家の一つであった九条家の茶会のための離れとして、二百年ほど前の江戸後期に建てられ、九条家の現存する唯一の建物です。

建物は数奇屋風の書院造りで、外回りには縁高欄と言われる手すり

が施され、簡素な中にも貴族的な外観です。また屋根の形も「切妻造」「大母屋造」が組み合わされて、優美な外観を呈しています。今も二つの茶室が残されていて、現存する公家屋敷の茶室としては数少ない建造物で、貴重な文化遺産です。

九条家の庭園だった九条池（勾玉池）に面して建てられて、東山を借景とした眺めを第一につく

られたといわれています。

閑院宮

閑院宮家は伏見宮家、桂宮家、有栖川宮家と並ぶ四親王家の一つで、東山天皇の皇子直仁親王を始祖として創立され、この場所に屋敷を構えま

した。創建当初の建物は天明の大火で消失し、その後再建されたが、現在の建物との関係など詳しいことはわかっていません。

明治2年の東京遷都に伴い閑院宮家が移られた後、華族会館や裁判所として一時使用されたりして、昭和24年に京都御苑が国民公園となり、厚生省のち環境省の京都御苑管理事務所として使用されまし



閑院宮邸跡の建物と庭園は当時の面影を今に伝えています。

詳細は、VG機輪の本ページを覧下さい。

2017年6月度行事予定

昆陽池から清酒発祥の地を訪ねる：伊丹市昆陽池・鴻池

月 日：平成29年6月15日(木)
集 合：伊丹市昆虫館 入り口前 集合時間：10:50
訪 問 先：伊丹昆虫館、昆陽池、鴻池神社、慈眼寺他
その 他：1) 一般参加の方は、会員に申し込み下さい。
2) ボランティアの方にガイドをお願いしています。
※ 詳細は別途資料を参照下さい。

2017年7月度行事予定

進化する中之島 水都・大阪のシンボル

：フェスティバルシティ
月 日：平成29年7月13日(木)
集 合：朝日新聞大阪本社 13階 受付前ホール
訪 問 先：朝日新聞大阪本社、朝日新聞大阪工場
その 他：1) 雨天決行
2) 詳細は別途資料を参照下さい。